

会 議 録

会 議 の 名 称	平成２９年度 新座市子どもの放課後居場所づくり事業 運営委員会（第３回）
開 催 日 時	平成３０年３月１６日（金） 午前１０時から午前１１時まで
開 催 場 所	本庁舎３階 ３０３・３０４会議室
出 席 者	金子 廣志 入山 尚浩 小林 奈々江 高橋 靖子 荒井 マサ子 石原 志穂 工藤 ひとみ 志摩 光信 荒井 規行 中野 仁美 高野 章 設楽 智子 宮川 みさ子 渡辺 哲也 梅田 竜平 三枝 努 金子 文春（代理） 計１７名
事 務 局 職 員	生涯学習スポーツ課 小糸副課長、藤田主任、天倉主事 岡村主事、向山主事補、武嶋
会 議 内 容	１ 開会 ２ 挨拶 ３ 議事 （１） 各ココフレンドの活動状況報告 （２） 新規開設校及び長期休業日の午後の開設校について （３） 子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱の改正について （４） ココフレンド各種マニュアルの改訂について （５） 運営委員会今後のスケジュール ４ その他 ５ 閉会
そ の 他 の 必 要 事 項	特になし

審 議 の 内 容 (審議経過、結論等)

1 開会 (小糸副課長)

2 挨拶 (金子教育長)

平成30年1月1日付け組織機構改革による新たな委員の紹介 (小糸副課長)

3 議事 (進行：金子委員長)

(1) 各ココフレンドの活動状況報告 (説明：藤田主任)

(資料P1～7)

- ・ 2月末現在の学年別登録児童数は、前回の11月の会議の時と比べて若干増加している。
- ・ 低学年の登録率は高く、1・2年生はほぼ7割を超えている。学年が上がるごとに登録率が下がる傾向となっており、この傾向は前回と同様である。
- ・ ココフレンド全体の登録率は54.8%である。昨年度の登録率は53%だったので微増している。
- ・ 9月までの日々の参加人数の平均は、20人から50人程であったが、10月20日から翌年1月末日までの冬時間の期間中は、お迎えのない児童は午後4時30分の下校となるため活動時間が短く、また、1月中旬から2月にかけてインフルエンザ様疾患による学級閉鎖が増えたこともあり、参加者が減少している。

<東野ココフレンド：岡村主事代読>

- ・ 年末に、地域の方々によるクリスマスイベントを開催した。
- ・ 1、2月は、インフルエンザの流行があったが、最近はたくさんのお子どもたちが来てくれている。
- ・ 平成30年度のココフレンドの申込みについては、職員会議でスケジュール表を配り、説明をさせていただき、先生方の御協力を頂いた。
- ・ 3月14日(水)には、放課後児童保育室の「みつばち」と合同避難訓練を実施した。ココフレンドは28人、みつばちは80人の児童が参加し、室内にいた児童は学校教育林へ、校庭で遊んでいた児童は朝礼台の前にそれぞれ集合した。当日は混乱もなくスムーズに行われた。

<東北ココフレンド：岡村主事代読>

- ・ 2月に入り開室時間が長くなったこともあり、参加児童が冬時間の頃より2、3割増加した。
- ・ 1年生が毎日20名以上参加している。すっかりココフレンドに慣れて思い思いに自分の時間を過ごしているが、少々我が儘や気の緩みなどが見られるようになった。間もなく新1年生を迎えるので、お手本になれるように指導している。
- ・ 毎年恒例になった料理教室を今年も3週に渡り行い、総勢124名が参加した。野菜の価格高騰で少々困ることもあったが、ほぼ予定通りに行う

ことができた。

- ・ 月末に行う「6年生お別れイベント」の準備を進めているところである。

<新堀ココフレンド：高野コーディネーター>

- ・ 子どもたちの参加状況は例年同様である。学校全体では1月から2月にかけて体調を崩す子どもたちが多かったが、無理をしてココフレンドに参加している子はいなかったようだ。その間の参加人数は少し減ったが、ココフレンドでは楽しく遊んで過ごしたい、という子どもたちの思いが見えてくる。
- ・ 冬時間は室内で遊ぶことが多かったので、カルタなど昔ながらの遊びにも挑戦した。みんなで遊ぶ楽しさを感じて、カルタで遊びたくて参加した子もいたようだ。全体を通して、子どもたちが遊びの中で成長していることが感じられる。
- ・ 開設時から継続して活動してくれているスタッフが多いので、スタッフと子どもとの関係が安定している。今年度から特別支援学級の児童が参加しているが、スタッフミーティングを通して共通理解を持って関わっている。その子が楽しそうに入室している様子を見て、スタッフも喜んでいる。

<四小ココフレンド：設楽コーディネーター>

- ・ 年末のクリスマス会では、放課後児童保育室からも10名ほど参加して、楽しく過ごした。
- ・ 年明けから、放課後児童保育室をやめてココフレンドだけにする児童が増えてきた。
- ・ 1年生はココフレンドにだいぶ慣れてきたが、落ち着いて学習することが難しい子も何人かいる。新1年生のお手本になれるようにと声かけをしている。
- ・ 毎年、年度末に「ココフレ縁日」を行っている。今回も75人の子どもたちが参加する予定になっており、子どもたちもスタッフも楽しみにしている。

<野寺ココフレンド：岡村主事代読>

- ・ 1月の終わり頃から学級閉鎖が続き、低学年は入室を控えている傾向がみられた。
- ・ 2月に低学年と高学年に分かれてバレンタインイベントを行った。それぞれ学年に見合った内容を企画したため、高学年の子どもたちも多数参加した。
- ・ 冬時間は活動時間が短く、参加児童が減少するので、短い時間でもたくさん子どもたちが「楽しかった」と笑顔を見せてくれる放課後の居場所を考えていきたい。

<栗小ココフレンド：宮川コーディネーター>

- ・ 現在スタッフは17名登録しており、ほとんどの方が継続して活動してくれている。スタッフ同士がお互いの持ち味を理解しており、とても落ち着いた運営ができている。
- ・ スタッフは様々な特技や趣味を持っているので、ストラックアウトや人間双六、缶ぽっくりなどを手作りしてくれる。また、折紙やリース作りな

どのミニ教室も行っている。希望する子は、その日のうちに必ず仕上がるものに取り組んでいる。保護者から、家庭で子どもが同じ物を作ったとスタッフに報告があり、スタッフのやる気にもつながっている。

- ・ 子どもたちがトラブルになった時、子どもたちの個性を把握して対応するために情報交換がとても重要である。ココフレンドが始まる前と終了後に情報交換を密にするようにしている。
- ・ 来年度は、夏休みから長期休業日の午後も開設することになった。コーディネーターとして運営の仕方を考えているところである。
- ・ 栗小ココフレンドは3年目になるが、初年度しか登録していなかった高学年が何名も来年度の申込みをしている。長期休業中の午後の開設が理由の一つなのかもしれない。

<新開ココフレンド：岡村主事代読>

- ・ 新開ココフレンドの2年目の重点目標は「ココフレンドルールの定着」であつた。今年度は1年生の登録も多く、4月からルールを繰り返し伝えることで、低学年にルールの定着化が図られてきた。災害時も念頭におき、「列をつくる、並んで移動する」を合い言葉に、必要な時は声をかけ、落ち着いて行動できるようにサポートしている。
- ・ 長期休業中の大きなイベントの他に、毎月「今月の取組」を決め、ココフレンドの子どもたちだけでなく、登録していない子どもたちも巻き込んでココフレンドの存在を広めていくという、参加型のココフレンドも目指している。
- ・ 安全面においては、それぞれの活動場所で、スタッフの役割を決め、緊急事態にも対処できるように常に意識し、子どもたちの安全を第一に考えている。スタッフルームでは、窓、換気などの項目を貼り、全員で安全を確認できるようにしている。
- ・ 誕生日を自己申告してきた子には、手作りの誕生日カードを渡し、皆の前で簡単なインタビューを行っている。学年を超えてお互いを知り合い、存在を高め合う機会になっている。子どもたちもとても喜んでおり、カードだけもらいに来る子もいる。

<大和田ココフレンド：岡村主事代読>

- ・ 冬時間は参加人数が減少傾向にあつたが、2月になって通常の時間に戻ってからは、また増えてきており、30～40名の日が多い。
- ・ 子どもたちはココフレンドの生活リズムに慣れてきており、学習にもよく取り組み、時間に合わせて活動することができている。ココフレンドの流れが子どもたちにも定着してきている様子がうかがえる。
- ・ スタッフの得意な分野を生かして、読み聞かせ、ぶんぶんゴマ、どんぐりゴマ作り、どんぐりやじろべえ作り、紙飛行機作りとコンテスト、プラバン作りなどを実施した。春休みにもイベントを予定している。
- ・ 冬休み期間は1日開室となり、お弁当を持参しての活動となった。2部屋利用させていただき、低学年と中、高学年に分かれて活動した。1月4日（木）以外は50～60名の参加があり、イベントを実施した日は80名を超える参加があつた。
- ・ 冬休み期間中は、午前、午後ともスタッフだけで1日対応した。スタッ

フの昼食時間や配置時間をずらして、子どもたちの見守りや連絡の時間を確保した。

- ・ 春休みもスタッフだけで1日対応することになっている。スタッフによる読み聞かせ、タオル人形作り、地域の方による演芸の三つのイベントを予定している。

＜石神ココフレンド：中野コーディネーター＞

- ・ 今年度、ココフレンドの専用の部屋ができたので、受付がしやすくなり、1年生も戸惑う事がなくなった。
- ・ 3学期はインフルエンザの流行による学級閉鎖が多かったのも、ココフレンドの参加児童も少なかった。
- ・ 冬時間が終わってからお迎えが少なくなった。下校時間が明るくなってきたことと、1年生が下校に慣れてきたことによる傾向と考えられる。
- ・ 3学期は4年生以上の来室が多かったが、口答えをするなどスタッフに対する態度があまり良くなく、スタッフも対応に困ることがあった。コーディネーターも指導したが、言う事を聞く子もいれば、うるさがって来なくなった子もいる。対応の難しさを感じた。
- ・ 石神ココフレンドは6年目になり、スタッフの皆さんは各々都合をつけて長く続けてくださっている。コーディネーターとしては、どのようにスタッフのモチベーションを上げていくかを考えている。スタッフ主導でのイベントの開催、工作や折紙の指導や読み聞かせなどで、よりフレンドリーに関わっていただきたいと考えている。
- ・ 代休日の開室の日の参加人数は少なく、ゼロの日もあった。前もって参加人数がわかっている方がよいが、ココフレンドの趣旨に合わなくなってしまう。
- ・ 来年度の申込みをみると、多い学年と少ない学年があり、学年によってかなり差がある。
- ・ 放課後児童保育室からの参加は、多い日は5、6名、少ない日は2、3名である。友達同士で相談したり、曜日を決めて参加したりしているようだ。ダブル登録の児童について放課後児童保育室の支援員の中では、放課後児童保育室の人数が減るわけではなく、約束事が徹底できないことも困る、という意見が出ているようだ。

(2) 新規開設校及び長期休業日の午後の開設校について（説明：藤田主任） （資料P8～P10）

前回の会議において、第4次新座市基本構想総合振興計画後期基本計画に基づき、平成30年度の新規開設校を八石小学校と栄小学校とすることで了承いただいた。現在、八石小学校では2階の生活科室を、栄小学校では1階の英会話ルームをココフレンドスタッフルームとして使わせていただくことで、準備を進めている。

また、毎年、ココフレンド登録児童の保護者を対象に実施しているアンケート結果からも、長期休業日の午後の開設のニーズが高いことから、長期休業日の午後の開設校の拡大について検討、調整をしてきたところである。その結果、新規開設の八石小学校、栄小学校、既存校では東野小学校、栗原小学校で新たに午後の開設をすることとなった。

これにより、平成30年度のココフレンドの開設校は11校となり、そ

のうち、東北小学校、大和田小学校、東野小学校、栗原小学校、八石小学校及び栄小学校の6校で長期休業日の午後の開設を行うこととなった。

(資料P 1 1)

資料に沿って開室までのスケジュールを説明

(3) 子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱の改正について（説明：藤田主任）

(資料P 1 2～P 1 7)

- ・ 平成28年度から、子どもの放課後居場所づくり事業実施要綱第5条第2号及び第7号に基づき、「県民の日と、学校休業日に行われた授業及び行事等により新たに代休となった日」は、午前8時30分から正午までの午前中に事業を実施してきたところである。しかし、今年度の学校代休日等の児童の参加は、延べ43日間実施のうち22日間で10名以下という少ない状況であり、児童の参加がない日もあった。30名以上の参加があった日が4日間あったが、いずれもイベントを実施した日であった。これは、昨年度も同様の傾向であった。コーディネーターやスタッフの負担軽減ということからも、平成30年度から県民の日及び学校代休日を休室とするものである。
- ・ 第5条第2項に、平成30年度からココフレンドを新規開設する八石小学校、栄小学校、また、長期休業日の午後の開設を行うこととなった東野小学校及び栗原小学校を追加するものである。
- ・ ココフレンドのコーディネーターは、市の非常勤一般職員として任用しており、「非常勤一般職員の任用及び勤務条件に関する規則」により65歳までとなっている。更に「職務の特殊性等により特に必要と認められる場合は、67歳に達する日以後の3月31日まで」という年齢上限がある。しかし、熱意ある人材を年齢制限により失ってしまうのは、大きな損失となってしまうことから、任期满了になったコーディネーターに、引き続きコーディネーターを補佐する立場として事業に御協力頂けるよう、新たに「教育活動推進委員を配置する」ものである。第6条第2号、同条第4項及び第8条に職務や身分について明記している。

(4) ココフレンド各種マニュアルの改訂について（説明：天倉主事）

ココフレンドで使用している各種マニュアルについては、昨年度3月の運営委員会において承認いただき、今年度4月から運用しているものであるが、このたび追加、修正をしたものを案として提出させていただいた。

- ・ スタッフの配置について、ココフレンド緊急時対応マニュアル（案）の表を基準にココフレンドの状況に合わせてコーディネーターが人数を決定するものとする。
- ・ 弾道ミサイルの対応については、基本的な行動は全て「学校防災マニュアル」と国から発信されている「弾道ミサイル落下時の行動」に準じて行うものとする。
- ・ 一昨年、国からアレルギーやてんかん等の対応について通知があったことから、改めて検討しココフレンド衛生管理マニュアル（案）に追記した。また、保護者、学校との調整事項についても追記した。

委員 弾道ミサイルの件については、教育支援課から学校に通知している

ので、差異がないかどうか確認したい。また、学校でのエピペンの取扱いについては、学務課が対応しているので確認したい。

(5) 運営委員会今後のスケジュール（説明：藤田主任）（資料 P 18）

- ・平成30年度についても、5月21日（月）、11月、3月の年3回の会議を予定している。新年度になったら第1回運営委員会の御連絡をさせていただく。

4 その他
特になし

5 閉会（入山副委員長）